

令和4年4月15日発行 Tel:29-5210 Fax:21-3456



満開の桜の花に迎えられて、令和４年度がスタートしました。岩国市教育長 守山が年頭のご挨拶で、「本年もコミュニティ・スクールを中心とした、“地域とともにある学校づくり”を進めるとともに、“いつでもどこでも誰もが学べる生涯学習の環境づくり”に努め、市民の皆様が“志高く豊かな心と生き抜く力を育む”取組に向けて、市と教育委員会が連携して、教育行政を進めてまいります」と力強く述べています。

地域連携教育の推進は、学校教育課と生涯学習課の連携が必須です。学校と教育委員会の意思の疎通が重要です。地域住民と学校教職員の心のつながりが出発点です。「つながりづくり」を大切にすることで、学校・地域における「人づくり」「地域づくり」が深まり広まっていくことを願い、昨年度までの“岩国・和木CSだより”を“地域連携教育だより「つながり」”と改名しました。

地域連携教育推進の中心となるスタッフ4名を紹介します。どうぞよろしくお願いします。



生涯学習課 主査
藤本 秀則



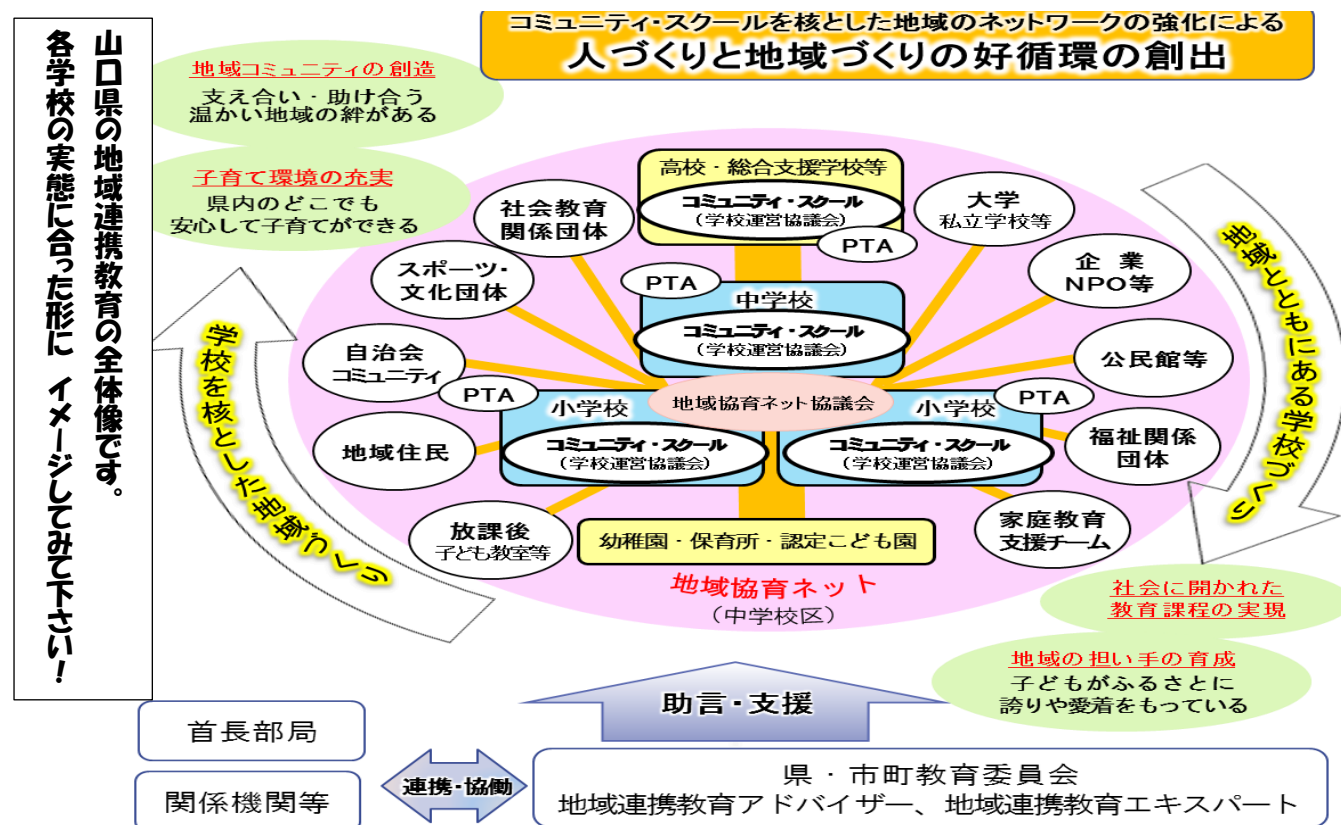
生涯學習課 主任
平畑 典之



学校教育課 指導主事
木村 ひろみ



生涯學習課
大上 好久



※ 各小中学校等での実践をこの紙面で紹介します。ご協力よろしくお願いします。



「何とかならんでしょうか。」 「よっしゃ！」

地域連携教育は、なぜ国の重要な政策なのでしょう。

文部科学省は、ホームページの School Home Community（学校と地域でつくる学びの未来）の冒頭で、「昨今、少子高齢化や地域のつながりの減少による地域教育力の低下や、発達障害や貧困といった福祉的な課題の増加などを背景に、学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけではなく、社会全体で子供の育ちを支えていくことが求められています。」と述べています。

そして、具体的な進め方として、「地域と学校が、子供たちの学びの充実のために、協議し、協働し、活動後の評価をして、また次の取組につなげていく。」という PDCA サイクルを回していくことの重要性を強調しています。

本号では、学校運営協議会における校長先生の一言から、地域住民が立ち上がり、小学校入門期の子供たちのなめらかな小学校生活への順応を図る計画（スタートカリキュラム）ができあがり、実践5年目を迎えた玖珂小学校の事例を紹介します。

【玖珂小学校】新一年生の生活支援ボランティア



相川 智幸 校長

3クラスとも、毎日4～5人ずつ入ってもらっています。4/12(火)から4/22(金)までの2週間で、8:30から15:00までです。

今年は、コロナの影響で、6年生が給食準備を手伝うことができず、ボランティアのお手伝いは、本当にありがたかったです。

個別の支援のおかげで、担任は全体指導に徹することができ感謝しています。



受付の名簿に自分でチェック



困っている子に話しかける



担任の指示をかみ砕いて話す



トイレの使い方を教える



牛乳を一人一人に配る



おかずを食器に適量入れる

※ どのような手順を踏んで、この活動が行われているか お聞きました。

2月 生活支援ボランティア募集のお知らせをします。

令和4年2月3日

学習支援ボランティア 様

岩国市立玖珂小学校
校長 相川 智幸

生活支援ボランティアの募集について

立春の候、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素から、本校教育に格別なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、来年度も新入生88名が、真新しい制服とランドセルを背に本校に入学して参ります。全校体制で新入生を迎え、一人ひとりの新しい学校での生活を支援して参る所存です。

しかしながら、子どもたちの中には、園から小学校への急激な生活環境の変化に馴染めず、できていた着替えやトイレの使い方が困難になるなどの、後戻りをしてしまう子も見受けられます。

そこで、来年度もボランティアの皆様方にご協力をいただき、なめらかな小学校生活への順応を図る計画（スタートカリキュラム）を進めて参りたいと考えております。

つきましては、別紙1のとおり生活支援ボランティアの募集を実施いたしますので、趣旨をご理解の上、活動可能な日時等を申込書（別紙2）にご記入の上、ご返送（FAX・直接ご持参・電話でも可）いただきますと幸甚に存じます。皆様の変わらぬご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

また、児童の給食開始に合わせて、ご希望があれば学校で給食をとることも可能です。別紙2の給食希望に○をつけて申し込んでください。

なお、新型コロナウイルスの感染の状況により、日程等の変更や中止となる場合にはあらためてご連絡いたします。

別紙1

生活支援ボランティア募集要項

玖珂小学校

1 趣 旨 生活環境の急激な変化による不安を和らげ、新入生が幼稚園・保育園で身につけた生活習慣を発揮できる環境づくりに資する。

2 日 時 令和4年4月12日（火）～4月22日（金）

3 主な活動内容 1年生の生活支援（学習支援は実施しない）
例 ・トイレ指導の補助 ・着替え等の補助
・学習道具の整理整頓の補助 ・移動時の整列補助
・健康診断時の補助 ・給食準備・後片付けの補助
・下校時の見守り

4 募集要件および人数 すでに登録されている学習支援ボランティアの方々を中心に30～40名程度（ただし、新入生の保護者でない方）
※ 新たに本ボランティア活動へ参加される方も随時募集しております。ご紹介ください。

5 活動時間帯 4月12日（火）～15日（金） 8時30分 ～ 11時30分
4月18日（月）～19日（火） 8時30分 ～ 15時
4月20日（水） 8時30分 ～ 14時30分
4月21日（木）～22日（金） 8時30分 ～ 15時

6 その他 ○3月28日（月）10:00より会議室にて説明会（約1時間程度）を開催いたします。
○活動の時間帯は、ご都合のよい範囲で構いません。
事前にいただいた回答の内容をもとに、学校で時間帯を調整します。
○控え室（CSルーム）を準備します。
○ボランティアは、各学級で一日5名程度、必要です。
○給食について
・4月18日（金）から給食をとることができます。4月になってから、給食をとる場所をお知らせします。児童と一緒に食べるのは難しい可能性があります。
・1食265円で各自ご負担いただきます。希望される方は別紙2の給食希望に○をご記入ください。
・代金は3月28日（月）の説明会の折に集金させていただきます。おつりがいらないうち、ご準備ください。なお、キャンセルに伴う返金には応じることができませんのでご了承ください。

担当 : 角井・木村
電話 : 82-2039
FAX : 82-2085

3月 生活支援ボランティア事前説明会をします。

4月 入学式の次の日から生活支援を開始します。

一年生 生活支援ボランティア(数字は、担当のクラスです) 令和4年4月11日現在																					
番号	氏名	4月12日		4月13日		4月14日		4月15日		4月18日		4月19日		4月20日		4月21日		4月22日			
		火		水		木		金		月		火		水		木		金			
		am	pm	am	pm	am	pm	am	pm	am	pm	給食	am	pm	給食	am	pm	給食	am	pm	給食
1	〇〇〇〇					1		1		1			1			1			1		
2	●●●●	1		3		2		1		2	2	2	2	2	2	1	1	1	3	3	3
3	〇〇〇〇			2		2		2							2	2	2	2	2	2	
4	●●●●	2		2		2		2					2	2	2	2	2	2	2	2	
5	〇〇〇〇	3		3		3		3		3		3	3		3	3		3			
6	●●●●					1												1	1	1	
7	〇〇〇〇	1				1		1		1			1					1		1	
8	●●●●	2						2		2	2	2			2						
9	〇〇〇〇	3				3		3		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
10	●●●●	2		2		2															
11	〇〇〇〇					3		3		3								3		3	
12	●●●●									2											
13	〇〇〇〇	1		1		1		1					1	1	1	1	1	1			
14	●●●●												2								
15	〇〇〇〇	2		2		2		2		2		1									
16	●●●●									1											
17	〇〇〇〇					3															
18	●●●●							2													
19	〇〇〇〇			1																	
20	●●●●	3								2											
21	〇〇〇〇	3				3		3		3			3								
22	●●●●	2											2								
23	〇〇〇〇	1		1																	
24	●●●●					1		1		1											
25	〇〇〇〇			3		3		3													
26	●●●●	1		3																	
27	〇〇〇〇			1																	
28																					

・気持ちが安らぎます。子供ら、元気をもらっています。



担任として、とても助かっています。赴任してすぐで、地域も人も分からない私にとって、地域の人の力は大きいです。感謝しています。

・気持ちが安らぎます。子供さんから、元気をもらっています。
・いろいろな子供がいることがわかりました。先生の大変さを感じました。
・どこまで言ったらいいか、悩むときもあります。＜生活支援ボランティアの声＞



やってなんぼ？ 話し合ってなんぼ？

文部科学省は、「未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むためには、組織的・継続的に、地域と学校が連携・協働していくことが大変重要です。具体的な取組としては、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や地域学校協働活動の一体的推進が重要です。」と述べています。

一体的推進とは、どのような姿なのでしょう。灘小学校の第1回学校運営協議会で、そのヒントをたくさん見つけたので、いくつか紹介します。

【灘小学校】前向きで、具体的で、実現可能な話合い（熟議）

① 学校運営協議会委員が、司会進行をすべて行っている

- ・ 会長挨拶、自己紹介、運営協議会推進構想に係る計画、学校経営基本構想（この項目のみ校長が説明）、意見交流・協議と流れるように会は進んだ。
- ・ 金子芳彦 会長は挨拶の中で「活動をもっともっと発展させたい。マンネリ化にならないようにしたい。コロナ禍ではあるが宿題サポートなどは再開してもいいのではないか。」など前向きな姿勢を示され、会議も具体的で実現可能な意見がどんどん出されていった。



金子 芳彦 会長

② 学校運営協議会委員が、地域学校協働活動に本気で取り組んでいる

- ・ 地域のスポーツ活動指導者のAさん
…会議開始直前までグラウンドで子供へ直接指導し、汗をふきながら、「私は、いつも子供にエネルギーをもらっています。」と嬉しそうに話合いに参加
- ・ 主任児童委員・保護司（灘地区社会福祉協議会理事）のBさん
…自分が関わった学校不適応気味だった子供の成長を、自分のことのように喜んだり、自ら挨拶するようになった子供の変容に安どの表情を見せたりしながら話合いに参加



建設的な話合い

③ 学校運営協議会委員が、地域協育ネット協議会委員を兼ねている

- ・ コーディネーター（灘地区社会福祉協議会理事）のCさん
…みんな元気 Da ネット（灘中学校区地域協育ネット）協議会での話合いの内容を報告
→ 灘地区人材バンク＜対象は、灘小、中洋小、灘中＞への登録について募集をかける（自治会の回覧で回す）こと、連合自治会で通学路の交通指導を始めたこと等



活動の様子が
一目でわかるCSルーム

コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の 一体的推進とは！

- ① 地域住民と学校が、互いを知ることから始める
挨拶＋一言 → 「こんにちは」＋「困っていることはありませんか？」
 - ② 目指す子供の姿は、しっかりと共有しながら、活動はできることから始める
子供の良さを生かす → 「〇〇できれば、子供は変わるかも？」
- 〇〇ならいいなの「ゆるいつながり」から「かたいつながり」に**



6+1 = すくすく・めきめき！

文部科学省は、小学校（中学校）学習指導要領の総則編「第3章 第1節 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割」の中で、『学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）や、地域学校協働活動等の取組をさらに広げ、教育課程を介して学校と地域がつながることにより、地域でどのような子供を育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンの共有が促進され、地域とともにある学校づくりが、一層効果的に進められていくことが期待される』と述べています。

教育課程を介して学校と地域がつながるとは、どのようなことでしょうか。周東中学校の学校運営協議会<しゅうとうネット>の話し合いや組織編成、実践の中で学んだことを紹介します。

※ 教育課程とは、教育の目的や目標を達成するための、学習内容と授業時数の総合的計画のこと

【周東中学校】活動を共にすることで、子供の成長を願う思いが一致

① 校長と学校運営協議会会長が、信頼関係を築いている

榎本 丈二 校長は、冒頭のあいさつで、「一年生は、本当に落ち着いています。これは小学校と中学校が学校教育目標を共有し、重点的に取り組んできた成果だと思います」と中学校と小学校のつながりの大切さを強調しました。



繁澤 祐治 会長

榎本 丈二 校長

繁澤 祐治 会長は、「校長はラストイヤーと聞いております。兼ねてより進めていた“周東地域協育ネット”を是非とも立ち上げ、活動を通して、小学校と中学校をつなぎ、周東町全体で子供を育てていきたい」と述べ、周東町の6つの小学校と1つの中学校をつなぐ“周東地域協育ネット”の総会<5/25(水)>を開催するまでの経緯を説明しました。

② 教育課程に組み込むため、3つの部会を教職員と地域住民で動かしている

- i 学力向上部会 …夏休み学習講座、周東ふるさとカルタ大会ボランティア業務、面接練習
- ii 心の教育部会 …親子奉仕作業、道徳授業公開、周東町学習講座、母子との交流
- iii 体力・環境部会 …町内一斉清掃への参加、学校校地内除草作業、門松づくり

自分で作る「お弁当の日」に向けた弁当作り

③ 小中学校が、学校教育目標を統一し、学びの姿を積極的に公開している

共通の学校教育目標「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生き抜く児童生徒の育成」



修成小学校 学校運営協議会(CS会議)で 授業公開

協働活動を教育課程に組み込む よさ

- ① 教科、特別活動等の学習として、すべての教職員が、住民と共に取り組める
- ② 限られた時間の中での活動を通して、教職員と住民が子供の成長を共有できる
- ③ 指導時数を増やさない持続可能な活動となり、生涯を通しての学びの基礎となる



子供の思い 分かったかな!? 大人の思い 伝わったかな!?

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動を結び付け、学校と地域社会が同じ方向を向いて、子供を育てることはとても大切であり、難しいことでもあります。

学校は、教育方針や教育活動の取組・子供の状況などを家庭や地域社会に説明し、理解を得ると、家庭や地域社会からの要望に応えることが重要です。

地域社会は、自分のこととして地域の子供の良さや課題を受け入れ、一体となって子供たちを育むための具体的な活動を展開することが必要です。

本号では、子供と地域住民と教職員が一同に会し、心を砕いて話し合う中で、それぞれの思いを知り“地域のつながり”を深めた錦中学校区拡大学校運営協議会（熟議）の様子を紹介します。

【錦中学校区】小規模校の良さを生かすことで、子供の自己肯定感を高める

① 全員参加の会議となるような、綿密な計画

- ・ 錦中学校・錦清流小学校・宇佐川小学校の教職員全員(25人)、錦中学校の生徒全員(28人)、地域住民(各校の学校運営協議会委員、錦町地域おこし協力隊、岩国高校広瀬分校…(18人)が参加
- ・ 学校地域連携カリキュラムの見直しに生徒が参加するために、授業時間の14:00～15:50の開催
- ・ “ファシリテーター（参加者全員から意見を引き出し、最終的に合意を得る役割）が進行の中心” “会議の主役は中学生と地域の方”など ポイントを明記した話合いのマニュアル



全体会の説明をした 田山満則 錦中校長

② 体育館を活用した、話しやすい空間の設定

- ・ 1グループ12～15名、全体で5グループ編成
- ・ コロナ対応も加味し、体育館全体を活用し、ホワイトボードを中心に半円型の隊形



※ 人の顔がよく見え、発言(言葉)の意図や思いが

地域の方の前で、堂々と発表する生徒

しっかりと伝わり、会場全体がしだいに和らいだ雰囲気になっていった。

③ 子供を主役にする話合いの進め方



1対1で、思いを語り合う

- ・ テーマ「小学校に入学してからの 学習や行事等で 思い出に残っていること」は、生徒が考えやすいものだった。
- ・ 思い出を付箋に書き込んだものを、一人一人が自分の思いや考えを加えながら発表し、学校地域連携カリキュラムの4つの柱に分類して貼る活動は、生徒に分かりやすかった。
- ・ 大人が、うなずいたり、「なるほど、いいね」とつぶやいたり、子供の発言を認め、価値づける姿勢が数多く見られた。

◎ 会の進め方のよく分かる 具体的な資料を紹介します！

< 実施要項 >

錦中学校区拡大大学校運営協議会《熟議》実施要項（改訂）		
1	ねらい	
	(1) 学校・地域の関係者が集い、熟議を行うことで、地域や子どもの現状・課題を明確にし、共有する。	
	(2) 小学校に入学してからの学習や行事等で思い出に残っていることを挙げ、カリキュラムの4つの柱のどこに該当する内容なのかを考える。	
2	日 時	令和4年5月19日（木）14:00～15:50
3	会 場	岩国市立錦中学校 体育館
4	受 付	体育館入口（受付開始13:40）
5	駐車場	グラウンド（自家用車は西側出入口から出入りする）
6	日 程	
	時 間	内 容
	13:40	受付開始（体育館入口） ・受付名簿で会場（ブース）を確認する。
	14:00	全体会説明（田山） ・熟議の意義、昨年11月の振り返り ・熟議の内容及び方法について
	14:15	各グループ熟議（5班） 【前半】中学生がこれまで経験してきた行事等やその説明について記入したカードを4つの柱の枠に貼り付けていく。（40） 【後半】地域の方は、手持ちの連携カリキュラムを参考に、その行事等の意義や何が出来るようになったのか等について深掘りする。（20） ※参加者（A3 白黒）、班（大判白黒）
	15:15	【まとめ】各班の熟議内容をシェア 5班×3分
	15:35	指導助言：岩国市教育委員会 生涯学習課に依頼中
	15:50	終了

< 地域の方向けの 話し合いの進め方 マニュアル >

地域の皆さんへ

今日の話し合い「錦中学校区拡大大学校運営協議会《熟議》」について

本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。
ご参加の地域の方には、生徒の意見を引き出すようにご支援をお願いします。もちろん、経験や思いなども語っていただきたいと思います。

1 本日の熟議のねらい

ア 地域住民（大人）と中学生が話す。
イ 中学生が学校や地域の行事や活動で学んでいることを知っていただく。（確認する）
ウ 昨年度つくったカリキュラムとこれまでの活動を比較する。（点検する）

2 今日の話し合いの流れ

① 中学生が付せんに書いてきた印象に残っている行事や活動を発表するので、聞いてください。（一人5つ以上書くようにお願いしています。）
② その活動は「具体的にどんな活動なのか」「どんなことを感じたか」「何ができるようになったか」など質問していただいて、その活動をした意味をお互いが確認してください。（ざっくばらんに話してください。質問例は別にお配りしているカリキュラム表にのせています。）
③ それぞれの活動が昨年度つくったカリキュラムの4つの柱のどれに関連しているのかをお互いに確認してください。（微妙なものもあると思います。その場合はその他に）

中1 平瀬ダムの見学
ダムは自然環境を守るもの
付せん

カリキュラム		拡大大カリキュラム				
4つの柱	小1、2	小3、4	小5～中1	中2、3	高校	
学び						
環境教育						
地域連携						
未来創造						
その他						

たとえば、昨年度行った平瀬ダムの見学であれば、環境教育の中2のところの「よりよい環境づくり」に貼られるのかもしれませんが。
※ ①～③を全員分繰り返してください。（1グループに中学生は4、5人いる予定です。）

④ 全員の発表が終わったら全体を見て、付せんが貼っていないところで、行事や活動がないか中学生に聞いたりしてください。地域の方からこんなものがあると教えていただいてもかまいません。

3 全体で意見を共有

※発表は拡大大カリキュラムの紙をタブレットで撮影して、ステージ上のスクリーンに映しながら行います。「行事や活動」と「どこに貼ったか」ということに加えて、その結果としてカリキュラムに加えた方が良かった、表現を修正した方が良かったことなどをマジックで書き込んだりしておいてください。中学生の発表のサポートをお願いします。

◎ 話し合いの後の感想です！

子供と地域住民の心の距離が縮まり、つながりが深まり、「地域を大切にしたい」という前向きな思いが伝わってきます。地域とともに子供を育てるという 教職員の意識の高まりも感じます。

地域に合ったテーマをもって話し合うことは、大人にとっても子供にとっても楽しいことです。

様々な人との出会い・つながりが地域を輝かせる出発点となったようです。

< 地域住民の声 >

- ・中学生の発言が生き生きとしてよかった。
- ・多世代の人と交流し、コミュニケーションを深めるとよい。
- ・今後も熟議を続けていくことが必要です。
- ・錦についての話題が多かった。美川にもクローズアップして熟議していく必要がある。
- ・子供はもっと地域のことを学ぶ必要がある。

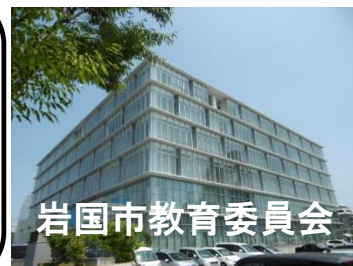


< 教職員の声 >

- ・生徒が錦・美川の良さや自慢を多く発表し、地域の方が詳しく話して下さって理解が深まった。
- ・生徒も企画運営に関わった行事は思いも強く、自己肯定感にも大きく影響を与えていると感じた。

< 生徒の声 >

- ・自分の意見を発表して、新しく錦について知れたので良かった。
- ・今の錦町にはどんな課題があって、私たちがどういうことをしたらいいのか知ることができた。
- ・地域の人と話し合い、錦・美川は20年後、30年後には無くなってしまいうという話を聞いて、僕たちは地域の担い手となって、守っていかなければいけないと思った。
- ・地域の未来を考え、それに向けて何かできるようになりたいと思った。地域の人の意見を聞いて、つながりが深いことが分かった。



岩国市教育委員会

10年・20年先の 子供たちの幸せを 願う

岩国市教育委員会では、本年度から3年間の地域連携教育の推進のあり方について計画を立てました。それぞれの地域や学校の実態に合わせて、学校と地域住民が心をつなげて、具体的な活動を、継続的に展開する中で、子供の成長を支えていきたいと考えています。

本号では、岩国市教育委員会の地域連携教育の長期的戦略および令和4年度から3年間の取組を紹介します。

Q: 今までも、地域の人材や自然、文化、行事などを学校教育に取り入れてきたけど、もっともっと増やすのですか？



令和4年度以降の取組

地域連携教育を通してめざす子供の姿

自他を認め、地域に愛着をもち、
未来を創造する資質・能力を備えた児童生徒



A: 違います。学校は、育みたい資質・能力に合った活動であるか精査し、地域は、無理せず、できることから動き始めることです。そして、一緒に子供の成長を喜び合うのです。

岩国市の長期的戦略

岩国市教育基本目標
志高く 豊かな心と生き抜く力を育む

豊かな心

感動する心
感謝する心
思いやる心

生き抜く力

夢を描く力
困難に立ち向かう力
共に学び合う力



地域連携教育を通してめざす子供の姿

自他を認め、地域に愛着をもち、
未来を創造する資質・能力を備えた児童生徒

自己肯定感・他者肯定感
自律心・幸福感

C S・地域協育ネット

学校運営の質の向上

10年・20年先を見据えた 育みたい資質・能力

- ①生まれてきてよかった、自分は自分のままでいいんだという **自己肯定感**
- ②あなたはそうなんだ、あなたはそれでいいんだという **他者肯定感**
- ③この地域は好きだ、他と比べるとないものはあるが満足しているという **地域肯定感**
- ④自分で規範を打ち立て、それに向かって行動する **自律心**
- ⑤自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、それぞれに思い描く幸せを実現する **幸福感**



由宇中学校

地域連携教育の理想の姿は スムージー？

学校運営協議会は、岩国市内に44あります。すべての小中学校に設置されています。構成メンバーは、地域協育ネットとの重なりもありますが、PTAや教職員が多く含まれることが特徴です。目指す子供像を話し合ったり、地域協育ネットの人材や仕組みを生かし、子供と地域住民と保護者が共に活動したりすることによって、子供たちの成長を支え、喜び合うものです。



地域協育ネット協議会は、岩国市内に14あります。中学校区ごとに設置されています。構成メンバーは、自治会・コミュニティなどのまちづくり団体、社会福祉協議会などの福祉団体、スポーツ・文化団体、社会教育団体、家庭教育支援団体、公民館、企業・NPO、地域住民など様々です。それぞれの団体の特徴を生かしながら、子供たちの学習支援や安全・安心な環境づくり、地域貢献の場の提供等を行うものです。

本号では、野菜と果物が、砕かれた氷によって、なめらかでスムーズな食感のスムージーになるように、学校運営協議会と地域協育ネットが、人によって結ばれ一体となって、子供の自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感を育てている結愛ネット（由宇中学校区）の“子どもの学びプロジェクト”を紹介します。

【由宇中学校区】時空間を共にすることで、小学生と中学生と地域住民の心をつなぐ

①中学生が、生徒総会で話し合う。【生徒会活動】
A…思いやりについて
B…思いやりの愛言葉について

②小学生が、中学生の司会・進行でAとBについて話し合う。
【総合的な学習の時間】

③地域住民が、話合いの様子を参観し、感想を述べ合う。

小学生も、頑張ってよく考えているな。

小学生に分かってもらえるかな。

人の前で、話すのは緊張するな。

中学生の考えは、素敵だな。

小学生も、自分の考えをたくさん発表しているな。話し合ったことをしっかりと実践してほしい。

中学生は、分かりやすく、丁寧に説明しているな。

《裏面に続く》

※ なめらかな 連携活動となっている 秘密はどこに？

① 計画段階で、学校のカリキュラムと 地域学校連携活動がつながっている。

- ・ 【6月】中学校の生徒会活動 → 【6月】小学校の総合的な学習の時間
→ 【8月予定】結愛ネットと同じテーマ（思いやり）で、子供と地域住民が熟議

② 地域協育ネットの3部会が、PDCA サイクルを しっかり回している。

- ・ 目指す子供像を共有しながら、知・徳・体の3部会が、子供や地域の現状について穏やかな雰囲気ながらも、真剣に話し合っている。そして、具体的に“誰が、どこで、何をするか”を考え、次回（3月）には、振り返りをすることを確認している。

※ PDCA サイクル …Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)の繰り返し



(知)プロジェクト
～聞く・伝える学び合い活動～



(徳)プロジェクト
～あいさつと礼儀～



(体)プロジェクト
～生活習慣～

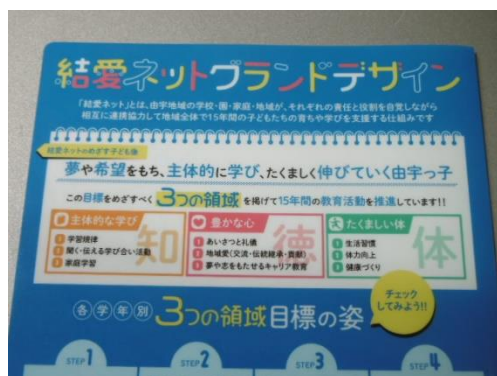
③ つながりを演出する協育応援団が、精力的に動いている。

地域学校協働活動推進員（藤重さん）とコーディネーター2人（夏目さん、瀧重さん）が、常に各種会議に出席したり、地域情報を“結愛ネット安心メール（登録者数600人以上）”を通じて発信したりしている。

本年度は、登録者対象に、「スマホ使い方教室（5～7月）」「健康スポレクひろば（7～10月）」を開催するなど、人のつながりを作り広める活動を展開している。



地域学校協働活動推進員
藤重 勇 さん



目指す子供像等を示した クリアファイルを関係者に配布



(知) プロジェクト				
チームリーダー (由西小 小嶋 三保子)				
重点取組事項 ② 聞く・伝える学び合い活動				
1 研究主題 主体的に自分の思いや考えを『伝え合う力』の育				
副主題				
神東小学校 他学年や地域とのつながりを意識した授業作り	由西小学校 子どもたちの発言をつなぎ、考えを深めることができる授業づくり	由宇小学校 関わり合いを生み出す授業づくりの工夫と困り感に寄り添う支援を通して	由宇中学校 文章や ICT 等を用い、「伝える力」を育む具体を探る	
2 研究仮説				
他学年や地域との交流を積極的に取り入れ、目的意識をもたせる「導入の工夫」をしたり、「表現方法の工夫」を取り入れたりとすることで、主体的に課題に取り組む、自分の思いや考えを伝えることができるようになる。	意図的に思考の過程や根拠を明確にした説明を求める場面を設定することにより、論理的に説明する力をつけることができるであろう。	教師が子どもたちの「関わりたいと思わせる工夫」や「関わり合いの場の保障」をすることで、自己を理解し、考えを深め、ともに高め合えるよう子どもに育つ	ICT も用いて文章で表現する力を伸ばさせることで、「伝える力」を伸ばすことができるであろう。	
神東小、由西小、由宇小、由宇中の教職員と住民が、同じ土俵で、同じ目標に向かって、子供の成長を支えています。				
教員が ICT 機器を活用する」、「生徒が ICT 機器を活用する」場面の設定				



子供は地域の宝 学校は地域づくりの原動力！

山口県教育委員会は、「山口県の地域連携教育とは、人づくりと地域づくりの好循環の創出をめざして、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした 学校と家庭，地域住民，企業・大学等の連携・協働により，郷土への誇りや愛着を育むとともに，子供の豊かな学びや育ちを実現していく教育」ととらえています。『人づくり・つながりづくり・地域づくり』を大切にする営みです。

本号では，“学校を核とした地域づくり”に取り組んでいる由西小学校の“児童・保護者・地域住民の3世代の話合い（熟議）”の様子を紹介します。

【由西小学校】地域の若者(卒業生)が、小学生と地域住民の 夢を膨らませる

《学校のねらい》

- ・自分の思いを表現する力を育む
- ・地域の良さと課題を知り，郷土愛を育む

《地域住民の願い》

- ・地域を活性化する具体策が欲しい
- ・郷土愛を深め，担い手を育てたい



《若者(卒業生)の思い》

- ・ふるさとを想い，社会に出た経験を生かして，全国的な視野で，由西地区を情報発信したい



タブレットを使って，由西の良さと自分にできることを堂々と発表する小学生

「地域の価値に気づき，課題を強みに」と訴える卒業生（東京と地元在住の30代）



これまでの活性化の取組と課題を語る「由西を元気にしよう会」会長

【良さ・価値の共有】

- ・自然が豊か，トマト
- ・蛸がいっぱい
- ・カープ練習場がある
- ・神楽がある
- ・人が温かい…



【課題・改善策の検討】

- ・住みやすさを増す
- ・人が賑わう工夫
- ・交通の利便性を確保
- ・空き家の有効利用
- ・人手不足の解消…

【グループ協議の後の 全体協議のまとめ】

新たに作る・良さを広める・伝統を守るの3項目について協議し，これからの方向性を確認した。そして，全世代で共通して活動することと 世代ごとに活動することを決め，笑顔で閉会した。



教師の力量の高まりが 子供の夢を育む！

地域連携教育の必要性や価値を実感し、二学期からの教育実践に生かすために、岩国市教育委員会主催の研修講座を市教育センターで開催しました。対象は、採用2・3年目の教職員を中心にした市内の小中学校の教職員です。研修内容は、地域連携教育とは何か（目的や意義）、地域連携教育とは何をするのか（内容）、地域連携教育はどのように進めるのか（方法）などです。

講義ばかりではなく、各地域・学校での実践を活用した演習も交え、自分の考えや思いを出しながら、理解を深め、実践意欲を高めました。本号では、その様子を紹介します。



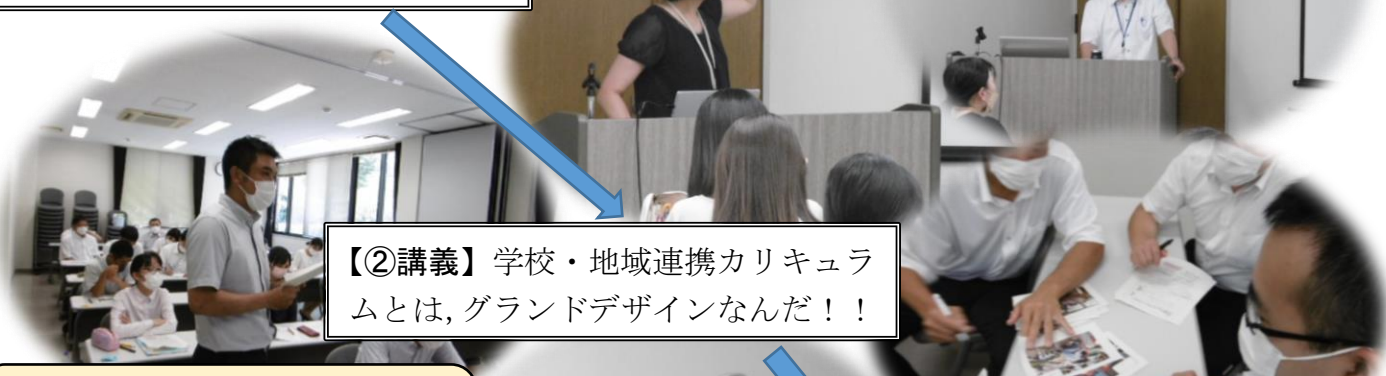
「地域連携教育とは 何か」を、自分の言葉で、30字以内で、3分以内に答えなさいって言われても…

地域連携教育とは、『学校と地域(住民)が、活動を共にする中で、一緒に子供の成長を喜ぶもの』ですね。



指導者も、社会全体で子供を育てる 必要性を強調しました。

【①講義と演習】 地域連携教育とは、子供の成長に有効な営みだ



【②講義】 学校・地域連携カリキュラムとは、グランドデザインなんだ！！

活動することによって、子供に育まれる資質や能力をグループで話し合い、積極的に発表しました。

複数の活動写真を、クイズ形式で、学校支援・まちづくり等6つの仲間に分けました。

【③ 情報交換と協議】 他校も本校も、子供の為の地域学校協働活動をやっているんだな！！

持続可能な 地域学校協働活動にするための ポイント

- ・無理・無駄・遠慮のない 楽しい活動
- ・計画は綿密に、実践は大胆に＜子供中心に＞
- ・一人でしようとしなくてゆるいつながりを生かす＞

自校の地域学校協働活動を 資料を基に説明し合い、良さや課題を活発に話し合いました。

【④振り返り】 教科、特別活動など教育課程の中から、自分にできる地域連携教育を、進めていこう！



学校という枠を越え 子供と教師が 地域に溶け込んだ！

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。社会教育法第5条第2項により、学校と地域が協働して行う活動と規定されています。本号では、その中でも「学びによるまちづくり・地域課題解決学習」と「遊び体験活動」の実践を紹介します。

ふるさと学習「龍王おどり」

美和東小学校5・6年生21人が総合的な学習の時間を活用し、美和町に伝わる雨乞いの龍王おどりを復活させました。

指導役は地域住民や保護者、そして担任教師

学校と地域が一体となった学びでした。

地域の人がやってきたことを受け継ぐことができて嬉しいな

“子ども芸能大会”にも出演
詳しくは美和東小HP

昔、自分も
踊ったな



ふるさと熟議

錦清流小学校の全学年が、授業の一環として、「地域から学ぼう・地域と学ぼう」をテーマに、地域住民と活発な話し合いをしました

美和東 小学校

竹細工教室

灘地区社会福祉協議会（灘小学校学校運営協議会 共催）が、5・6年生を対象に行いました。材料はすべて主催者が用意する時もほぼマンツーマン指導でした。

錦清流 小学校

灘 小学校

いいね あそこは空き家なので 会場として使えるかも？

竹を切るのは難しいけど、竹とんぼ作りは楽しいな

まちを笑顔にするために、ガラポン引換券を出そう

学校で難しいことは我々に任せてください

担任と住民と子供が、時間も忘れて議論しました。

社協メンバーの団結力・豊富な経験は最強でした。



岩国 中学校



平田 中学校

小学校と中学校の教職員が 同じ土俵に！

「地域連携教育」は、コミュニティ・スクールや地域協育ネットの仕組みを生かし、社会総がかりで子供の学びや育ちを支援するものです。いわゆる「横のつながり」です。

「小中一貫教育」は、「6・3制」を基本としつつ、教育（指導）区分を「4・3・2」とし、義務教育9年間のつながりを重視した 系統性のあるカリキュラム（教育課程）を編成して実施するものです。いわゆる「縦のつながり」です。本号では、幼児期からの連携も図りながら、「横のつながり」と「縦のつながり」を効果的に織り込み、『人づくりと 地域づくりの好循環』を模索している岩国中学校区と平田中学校区の実践を紹介します。

【岩国中校区】…岩国さんたいきょうネット全体研修会

～4小の取組を生かしつつ、1中として融合～

中学校と小学校の先生が集まる機会はとても貴重です。まずは、お互いを知ることから…



岩国中 高田修司 校長

小学校 …御庄小、藤河小、柱野小、岩国小
4小…78人 中…40人 合計 118人

【平田中校区】…小中一貫教育研修会

～1小、1中の強みを生かした「縦のつながり」～



平田小 森本忠寿 校長



平田中 白川裕隆 校長

地域住民…6人 参加
小…34人 中…24人

地域教育 部会

「錦帯橋子どもガイド」「職業講話」など地域の特色を生かした各校の取組を報告し、重点事項を協議しました。

心と行動 部会

「気持ちの良い挨拶」「より良い時間の使い方」「より良い人間関係づくり」「気持ちの良い環境」についての実践を報告し合いました。

学力向上 部会

「コミュニケーション力」を共通の身に付けたい力とし、各校の実践を交流しました。
※ 大規模校の強みである「多様な見方・考え方の交流」が、活発に行われました。



カリキュラム編成 部会

知徳体の3領域に分かれ、国語や道徳・生活規律、ICT教育のカリキュラム作りや見直し、全体計画の作成を行いました。

ふらっとネット運営 部会

ノーメディアの取組、出前授業、中学生による学習支援、挨拶運動、一斉清掃について協議したり、食育・部活動見学の計画を立てたりしました。

※ 小学校教員、中学校教員、地域住民が、自由に意見を交換する姿が、たくさんありました。

地域の皆さんが初めて知ったことも、たくさんあったようです。やはり「つながり」の出発点は、会って話すことですね。





宇佐川小学校

学校も 地域も 家庭も 忙しい今 なぜ“つながり”が必要なのか！

山口県教育委員会、岩国市教育委員会、和木町教育委員会が合同で、地域連携教育担当者合同研修会（岩国地域）を 岩国市中央図書館で開催しました。

市町の小学校と中学校の地域連携担当教職員、中学校区ごとに委嘱されている地域学校協働活動推進員、県立学校のCS活動推進員など、地域連携教育を中心となって進めている63名の参加でした。本号では、宇佐川地区の豊かな自然や人の温もりを生かした実践発表、活気あふれるグループ活動や つながりの良さを再認識した情報交換など 研修会の様子を紹介します。



実践発表 岩国市立宇佐川小学校 校長 西浦直樹 様 ～ふるさとを愛し ふるさに愛される

子どもの育成をめざして～



子どもを主役にした！
子どもが本気になるきっかけをつくりたい！！

地域の方も参加する【学びの場・交流の場】



バードウォッチング



絵手紙づくり(新)



干し柿づくり(新)



茶摘み・茶もみ

子ども主体の活動の成果

- ①地域の方が学校に戻ってきた
- ②身の回りにある物事に価値を見つけ始めた
- ③本能的にふるさとを大切に思う心をもっていることが分かった

グループ協議・情報交換

～地域連携教育の良さや価値を

考える～

- ・ 同じ小規模校としてとても参考になる実践発表だった
- ・ 総合支援学校の先生は、広域との接点を強みとして捉え、頑張っておられることが分かった



- ・ 子供の無限の可能性を伸ばすためには、子供の声を聴くこと・考えさせることも大事だと感じた
- ・ 楽しい、そして“やりがいや効果”の実感できる活動にするために、カリキュラムを充実したい
- ・ 地域の方の高齢化が……地域連携教育が学校の文化として根付くようにしたい

行政説明 山口県の地域連携教育 岩国市・和木町の地域連携教育



- ・ 学校を核とした地域づくり
- ・ 支え合い・助け合う温かい地域の絆づくり
- ・ 地域とともにある学校づくり
＜社会に開かれた教育課程＞
- ・ 緩やかなネットワークづくり ＜多くの方の参画を！＞



立場は違いますが、子供の豊かな成長の手助けになればと思います（CS活動推進員）



まずは、2030年のよりよい未来のために
今できること、まわりにある価値を育てていきましょ
う。共に、未来へのたねまきを！（西浦校長より）



修成小学校

めだかの学校は… だ～れが生徒か先生か……！

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会（中教審）が、平成28年1月に「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」という答申を出しています。

その中で、「子供の教育に対する 地域住民の主体的な意識への転換」を掲げ、『…今後は、子供たちを社会の主体的な一員として受け入れ、子供も大人も含め、より多くの、より幅広い層の地域住民が参画し、地域課題や地域の将来の姿等について議論を重ね、住民の意思を形成し、様々な実践へとつなげていくことが重要である』と述べています。

本号では、企業や専門家のアシストを受け、子供と地域住民と教職員が、同じ活動をする中で、自分の思いや考えを出し合い、最後に本当に子供にとって価値ある学びであったかを振り返るという“学校<コミュニティ・スクール>と 地域学校協働活動”を一体化した修成小学校の実践を紹介します。

計画

P_{lan}

- ① 学校運営協議会<コミスク> 1
授業と教育講演会への参加の仕方の説明

実行

D_o

- ② 参加型授業「スマホ・ケータイ安全教室」
＜NTTドコモ広島 オンライン活用にて＞
教育講演会「スマホ・ケータイとの付き合い方」
＜講師 岸 かおる様＞

私たちの学校は、コミュニティ・スクールです。今日は地域の人やお家の人と一緒に学習します。皆さんの応援団です。＜子供に向けて＞

吉松 明子 校長

本校の課題は、自己肯定感の低いことです。良さを認める「いいとこみつけ」を全校で行っています。本日の授業でも、自信をもって発表してくれればいいのですが… 子供の良さに目を向け、認めていきたいものです。＜コミスク委員に向けて＞

大人の人は、話をよく聞いてくれるし、色々なことを考えているんだな。

子供は、よく聞いているな。しっかり実行してほしいな。

個人情報を教えないこと、ネットゲームでのトラブル等、子供にとっても大人にとっても大切な内容だな。

評価

C_{heck}

- ③ 学校運営協議会<コミスク> 2
授業の振り返りと情報交換

改善

A_{ct}

- ④ 11/2 へき地複式教育部会研修会での授業公開

子供が自ら考え、自信をもって表現し、自己肯定感を高める機会となるよう確認した。

子供の良さや可能性をたくさん見つけました。カードに書いてしっかり伝えたいと思います。



岩国市中央公民館

公民館が 地域連携教育に 光を当てた！！

文部科学省は、「令和3年度 公民館に関する基礎資料」の中で、「地域コミュニティの衰退が社会全体の課題となる中、今後は、特に、住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割や、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割……『社会に開かれた教育課程』の実現に向けた学校との連携を強化するとともに、地域学校連携活動の拠点としての役割を強化することが求められる」と述べています。

本号では、岩国市中央公民館が中心となり、公民館共催クラブの活動を岩国中学校に移し、中学生と一緒に行った“岩国中学校・中央公民館 地域交流活動（7年目）”を紹介します。

実施までの流れ

- ① 活動内容の希望を提出【学校】→② 参加団体の募集・決定【公民館】→③ 交流活動実施計画の作成【公民館】→④ 活動場所と参加生徒の調整【学校】→⑤ 事前準備調査票の提出など参加団体との連絡・調整【公民館】→⑥ 活動実施および駐車場整理【公民館と学校】

俳句

＜対岸俳句会＞

俳句の奥深さや込められた思いを学んだ



華道

＜草月華遊び＞

奥行き、茎を長めに切る理由、男性も活かせること等知らなかった



民踊

＜第1・第2民踊クラブ＞

こぬか
・小糠踊りの歴史は四百年もあるんだ
・受け継いでいきたい



太極拳

＜岩国太極拳クラブ＞

・とてもかっこいい
・やってみると心が落ち着いて楽しかった



三味線

＜山口民謡睦実会＞

・三味線はこんなに重く大きく難しいのか
・多くの発見があった



ボクシング・エクササイズ

＜ミットクラブ＞

・人生で初めてグローブをした
・体勢など体の使い方が重要だ



活動後の子供の感想

- ・また俳句を通じて、友達・地域の人と関わりたい。
- ・あまり体験できない太極拳を地域の方とできてすごく嬉しかった。
- ・「センスあるね」など優しい言葉をかけてくださり、不安もなくなり楽しかった。
- ・この地域学習を生かし、自ら地域の方に話しかけたいと思った。
- ・1年の総合学習なので、来年は(三味線を)弾けないのは残念ですが、私たちの後輩をよろしくお願いします。

華道

＜師木野分館生花クラブ＞

・池坊をやった
・花の種類は少ないけどその分奥が深いな



※ 学校と地域をつなぐ岩国市中央公民館の取組は、子供の自己肯定感や地域肯定感を高め、興味や関心を広め深めたようです。地域の方の笑顔も印象的でした。岩国市全体への広がりが期待されます。



藤河小学校

小学校の社会科が 地域の伝統や文化を 未来につなぐ！！

文部科学省は、“小学校学習指導要領”の中に、「伝統や文化に関する教育」について育成したい資質・能力を明記しています。第4学年の社会科では、『県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること』『歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、…人々の願いや努力を考え、表現すること』となっています。

本号では、関戸奴(せきど やっこ)保存会の方々と学校(学級担任が中心)の橋渡しを学校運営協議会委員が精力的に行い、思いを一つにして実施した藤河小学校の授業実践を紹介します。

思いや活動の流れ

- ① 地域の伝統や文化を知りたいと発案【学級担任(4年)】
- ② 学校運営協議会委員に相談【校長・学級担任】
- ③ 保存会への連絡や調整【学校運営協議会 会長】
- ④ 当日の活動の打ち合わせ【校長・学級担任・会長・保存会】
- ⑤ 活動実施【学級担任・会長・保存会】
- ⑥ 奴道中を「ふじかわ発表会」で是非したい【子供から】

本物に触れられて嬉しいな。



江戸時代から伝わっているとは、すごいなあ。



・参勤交代の大名行列の名残をくむもので、関戸が守り続けてきたものだからだよ。

奴道中については分かったけど、どうしてやろうと思われたのですか。

・良いものは、次の世代に伝えていきたい。
・皆さんに力を貸してほしい。

・今年度岩国に赴任してきた担任の私も含めて、地域の伝統や文化を知らない子が多くいました。
・地域の一員として、自分たちの地域について、自分の言葉で話してほしいと願い授業づくりをしました。

・直接地域の方の言葉で、地域のことを伝えていただくことに大きな意味があります。
・子供が自分の言葉で家族に話すことが、世代をつなぎ、地域を愛する気持ちにもつながると思います。
・今回は、保存会のメンバーとして一人の保護者が参加、次回からは、より多くの保護者に呼びかけたいと思います。

片山 なるみ 校長

・学びの中心に子供をすえ、体験的な活動から知的好奇心を育て、「発表会で、地域の伝統や文化をみんなに知らせたい」という主体的な学びに発展させています。
・地域の皆さんの『伝統を守りたい』という思いが膨らみ、つながりも広がり、地域活性化にもつながっています。



藤河小学校コミュニティ・スクールだより いちちょうの木の下で 令和4年9月

地域のことを学ぶ機会を大切に！

※月号でもお知らせしたとおり、2学期は、地域の方々から多くのことを学ばせていただいたり、地域の方々と一緒に学んだりする機会がたくさんあります。
子どもたちにとって地域の方々から直接聞き取るお話は、地域について、興味を深め、考えていくきっかけになります。また、地域について知ることが地域を好きになっていくことにもつながると考えています。そこで、2学期にたくさん予定されている、地域の方々の学習の機会を大切にしていきたいと思っています。

藤河地域の水害や防災について学びました。

9月15日には、4年生が社会科の授業で、古閑さんから、藤河地域に過去に起こった水害やこれから考えていかなければいけない防災について教えていただきました。
藤河地域に過去に起こった水害について、写真を見せていただいたときには、みんな驚いていました。自分たちがいつも登下校で通っている地域に水が押し寄せ、いつもとちがう光景を目にし、考えることも多かったようです。

藤河地域の伝統文化についても学びます。

つながりの大切さを伝える
〈コミュニティ・スクールだより〉



おらが地域の未来を 描く！！【小学校の国語と総合学習】

文部科学省は、“小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編”の「内容の取扱いについての配慮事項」で、地域のもつ教育力を活用することでもたらす教育的効果を3つ挙げています。

- ① 学習やその成果を保護者も含めた地域の人々に公開することにより、児童が社会の一員であることを自覚したり、児童の学習意欲が向上したりする。
- ② 地域の人々と親密になったり、地域の自然や文化財等に関心をもったり、地域の伝統行事等に参加したりするようになり、児童が地域への愛着を高め、豊かな生活を送ることにつながる。
- ③ 郷土を創る次世代の人材育成や持続可能な地域社会の形成にもつながる。

本号では、6年生の国語「町の幸福論」と総合学習「町の未来を考えよう」を融合させ、地域の教育力(人材)を引き出しながら、子供を主役にした授業を実践している玖珂小学校を紹介します。

① 学級担任の思いから 授業を計画 → ② 国語の学習がスタート → ③ 地域の方が思いを伝える

自分たちの町のことを自分事として考えることは大切だ。学年全体で取り組もう！

鍵野 教諭

地域連携の担当となって、「くらかけネットの会」に参加し、町や子供たちへの地域の方の熱い思いを、初めて知った。

生の声を直接聴いて「地域の方の協力があってこそ、学校は成り立っている」ということを実感した。

子供たちに、自分たちがどれだけ地域の方に支えられているか、どれだけありがたいことかを知ってもらいたいと思い、授業の計画を立てた。

私も三年ぶり開催の「土曜夜市」の手伝いをした。子供の笑顔と地域の方の汗が輝いていた。

珠山 教諭

堀田 教諭

私自身も地元を離れ仕事しているが、地元が好きである。帰ると安心感に包まれる。何年たっても、この玖珂町を離れたとしても、玖珂町を愛し、ふるさとに誇りをもってほしい。



宮本 PTA 会長の話
(土曜夜市<夏祭り>実行委員長)

- ・土曜夜市の歴史
- ・住民(子供)に喜んでもらうため
- ・多くの住民がお世話していること

④ 子供と大人で 玖珂の未来を語る

→ ⑤ (3学期 総合学習) 玖珂町のためにできることを考え実践する

→ ※ (玖珂中学校) 玖珂町でのボランティア → 玖珂町を散策 → 玖珂町 PR「ふるさと CM」作成

話し合った内容を今後の玖珂町に取り入れ、生かしたいな。

地域の方は詳しく聞いてくれたので、内容が深くなり、すごく意味ある1時間だった。

宮本さんが、引き継いだ土曜夜市は50年も続いているのか。ボランティアしたいな。

地域の方は、子供とは考えが違って、いろいろなことを考えているんだな。

※ 地域住民の熱い思いが教師の心を動かし、教師の前向きさに住民が呼応し、住民のふるさと愛が子供の自発的・自主的な活動を誘発し、中学校における活動にまでつながる主体的な学びとなっている。



スパイラルな学びが 自分を変える 地域を変える!?

文部科学省は、「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(目標及び内容)の中で、「探究的な学習に、主体的・協働的に取り組むことで、期待されること」を次のように述べています。

- ① 互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合う関係ができる。
- ② 地域の様々な人との関わりで、「自分の力で解決することができた」「自分が学習したことが地域の役に立った」「これからも地域づくりに参画したい」などの、課題の解決に取り組んだことへの自信や自尊感情が育まれ、日常生活や社会への参画意識も醸成される。

本号では、中学生が小学生も取り込みながら、地域の人と一緒に、地域課題の解決のために、話し合いや具体的な活動を繰り返す、『スパイラルな学び』を実践している岩国西中学校を紹介します。

① 7/8 第1回ディスカッション

＜コロナ感染予防のため中学生のみで実施＞

話し合いで出た主な意見	
【テーマ1】地域との交流	【テーマ2】地域のPR
・小学生との交流	・ポスター・カレンダーづくり
・清掃活動	・HPやアイ・キャンで紹介
・大規模お楽しみ会	

② 夏休み 実行部隊の結成

- ・生徒から出た良い意見を実現しようと、実行部隊として「KIZUNA 隊」が発足。
- ・集まったメンバーは4人
- ・地域との交流の場を企画

③ 11/12 「親子地域ふれあい交流会」の実施

～アイ・キャン「デイリー i」で放送～

- ・ KIZUNA 隊のアイデアで、4つの部に分かれて実施



昔の遊び

ピカチュウやひよっとこなど自作の福笑いで、みんな大爆笑。地域の人と触れ合えてよかった。＜生徒＞

地域の人と親子で協力してスポーツしたり遊びをしたりできて、より仲が深まった。＜生徒＞



ソフトバレー



卓球

- ・3年間で一番楽しかった。
- ・地域の人と触れ合えてよかった。＜地域住民・保護者＞



茶道

生徒・保護者・地域の方々が自然に触れ合え、楽しいひとときが過ごせたようです。＜山根 校長＞

④ 11/25 第2回ディスカッション

＜杭名小・河内小5・6年、中学生全員、保護者、地域住民で実施＞

【テーマ1】地域との交流を地域全体に広げるには？

【テーマ2】地域の良さをさらにPRするには？

③それでは、学校が中心となって、グランドゴルフ等交流の場を設定しては！＜生徒＞

①住民同士の心のつながりを、もっと深めたい。＜地域住民＞

②僕達、中学生は、全員仲よく活動しています。＜生徒＞

④それはありがたい。私たちも住民に呼びかけます。＜地域住民＞

※ 地域住民と一緒に、地域の課題について、探求のプロセス(①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現)を何度も繰り返し、具体的な実践にまで発展させている。



周北小学校

つながりが 災害から 子供を守る 地域を守る！

令和4年3月に「第3次学校安全の推進に関する計画」が閣議決定されています。これは、令和8年度までの5年間の計画として国が策定したものです。その中で、防災教育を、単に生命を守る技術の教育ではなく、「防災を通じた教育」と広く捉える必要性を述べ、期待される効果を次のように述べています。

<期待される効果>

- ① 災害時に、自分と周囲の人の命を守ることができるようになる。
- ② 児童生徒等の主体性や社会性、郷土愛や地域を担う意識を育むことができる。
- ③ 地域と学校が連携して防災教育に取り組むことを通じて、大人が心を動かされ、地域の防災力を高めることができる。
- ④ 自然がもたらす恩恵などに触れることで、自身の暮らす地域に関する理解を深めることができる。



本号では、西日本豪雨災害(2018.7.7)を受け、自治会、学校運営協議会、行政機関など多様な主体と連携・協働し、災害を「自分ごと」「地域のこと」と捉え、学び合っている周北小学校の実践を紹介します。

①令和3年7月 防災学習Ⅰ

- 参加者…5・6年生、地域住民
岩国市危機管理課職員

3年前の豪雨災害後、地域の防災について話し合う機会がなく、大変有意義だった。【地域住民】



事前に調べた土砂災害の前ぶれや避難経路を二つ以上選んでおくこと等を発表できてよかった。家に帰って家族とも話したい。【子供】

小学校が中心となり、地域住民と市の担当者が話す機会が持て、大変ありがたいと感じた。【地域住民】

②令和4年7月 防災学習Ⅱ

- 参加者…5・6年生、地域住民

災害直後は、復旧に向けて精一杯だったが、災害の時の行動や避難等について振り返り、次の災害に生かすことが必要だと感じた。【地域住民】



地域の安全を守るためにも、学習したことを下級生や地域の方々に語り継ぎたい。【子供】

災害当時の様子を、地域の方から直接聞くことができ、災害の恐ろしさと早期避難の大切さがよく分かった。【子供】

③令和4年9月 避難訓練・引き渡し訓練

- 避難場所 …地域の酒造会社の2階



見守り隊のKさんのお口添えで、近くて安全な場所に避難でき感謝しています。【村田泰伸 校長】

※ 学校が、防災学習の場を地域に提供することで、地域住民の心を動かし、子供の心を耕し、防災意識と防災力を高めている。

④5・6年総合学習 「周北小の語り部になろう」

- 5・6年生が語り部となり、被災体験のない2・3・4年生に、災害の恐ろしさや災害への備えの大切さを伝えます。



「つながり」を大切にしながら 知・徳・体を一体的に育む！

岩国市教育委員会 守山敏晴教育長は、1月の「新年のごあいさつ」で、岩国市の地域連携教育について、次のように総括しています。「学校はこれまで、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験や、地域社会での体験活動を通して、大人と子供、子供同士の関わり合いを深め、子供たちの知・徳・体を一体的に育んできました。本市が力を入れているコミュニティ・スクールや地域協育ネットを基盤とした小中一貫教育、地域連携教育を核とし、つながりを大切にしながら、これらの取組を進めています。」

本号では、岩国市の小中学校の本年度の実践を振り返り、成果と課題を探ってみます。

成果 …地域住民と学校(教職員や子供)が、話し合いや活動を通じて、同じ課題に立ち向かった。



① 育てたい子供の姿が見えてきた。

教職員と地域住民が、「どんな学校にしたいか」「どんな子供に育ててほしいか」などよく話し合うようになった。



② 地域の要望を、学校の学習として組み込むことができてきた。

地域住民の思いである伝統文化を大切にしたり、地域の行事にボランティアとして参加したり…



③ 学校の弱み(課題)を地域住民が進んでカバーするようになった。

課題のある学年(学級)の生活支援や学力向上のための学習支援、草刈りなどの環境整備…



④ 大人と子供が同じ土俵で議論できた。

地域住民が、子供と一緒に、真剣に地域の課題やその改善策を話し合うようになった。



⑤ 小学校と中学校が心を通わせる機会が増えた。

同じ中学校区の小中学校の子供や教職員、地域住民が一堂に集まり、お互いの思いや考えを交流した。



課題 …地域の特性に合わせて、持続可能な活動や体制づくりをする必要がある。

- ① 学校は、カリキュラム(教科や総合学習など)の中で、地域とのつながりを深める。
- ② 地域住民は、地域の強み(自然や人材、行事など)を、子供に積極的に体感させる。
- ③ 家庭は、地域活動等に進んで参加することで、子育てを相談できる人や場所を増やす。



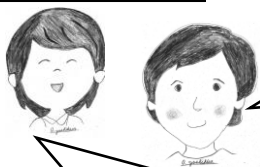


地域の学習拠点としての 公民館の魅力！

文部科学省は、「令和3年度 公民館に関する基礎資料」の中で、「学校教育と社会教育を通じて、子供たちが、地域に幅広いつながりを持ち、生涯にわたり学び続けながら多面的な思考力を養い、主体的に社会を形成し、自ら問いを立ててその解決を目指す人材へと成長していく過程を支援することが重要であり、そのためには、地域における学校教育と社会教育との一層の連携を推進する必要がある。」と述べています。

本号では、公民館活動の場を学校に求め、地域住民と子供に、世代を超えた楽しい学びを提供し、互いの心を開き、つながりを深め、元気で明るい地域づくりに取り組んでいる岩国市中央公民館 藤河分館の実践を紹介します。

① 4月提案



①公民館で行う活動を学校を会場にして、地域の方と子供と一緒に学習する楽しい場としたいのですが……

＜松本あけみ 社会教育指導員＞

②協議の結果、地域の方にも気楽に来てもらうために、英語に触れる活動とシロヘビ学習を2回ずつ計画することになりました。

②いいですね。是非やりましょう。子供を知っていただけるし、共に学ぶことで、深い学びになりそうです。

＜片山なるみ 藤河小学校長＞

③ 10/3 シロヘビ学習2

- ・4年生22人 住民・保護者5人
- ・指導員は岡田さん含め4名
- ・岩国シロヘビ藤河屋外放飼場に入り、間近で観察

シロヘビの子供も見られたし、写真もたくさん撮れて大興奮。聞きたいことがいっぱい出てきました。

＜子供＞

④ 9/29 英語に触れようI

- ・1・2年生40人 住民2人
- ・英語教育推進教員等3人が講師

授業の間は、すべて英語だけなんだな。ゲーム的な内容やクイズ形式などとても楽しいね。

＜地域住民＞

「ねえねえ、どこに住んでるの?」「○○ちゃんのおばあちゃんが来てる!」一緒に学習すると楽しいな。

＜子供＞

② 6/15 シロヘビ学習1

- ・4年生26人<柱野小4人含>住民10人
- ・講師は、文化財保護課の岡田さん
- ・シロヘビの歴史・生態・特性を学習

シロヘビってかわいいな。もっともっとシロヘビのことを知りたいな。＜子供＞

熱心に勉強するね。○○ちゃん家の△△ちゃんだよ。子供は質問もよくしているな。＜地域住民＞

- ・学校に快く受け入れていただき感謝しています。
- ・社会見学で公民館に来た時も、文化講座(太極拳)に興味をもって演武を見学、自然に交流が生まれ、皆さんも大喜びでした。
- ・年末には、6年生が大掃除にやってきて大助かりです。
- ・課題は、地域連携ネットワーク活動を周知し、参加住民をふやすことです。

※ 地域住民と子供が共に学ぶ中で、物事への興味・関心が高まったり、活動中に出てきた課題の解決方法を考えたり等、「つながり」と「学び」が深まっています。

